

# 「開発論」の再編成にむけて

——日本における視野、死角、展望

本セミナーでは、これまでの国際開発論の視野を整理する。そして、国際開発学会「開発論の系譜」研究部会とEAAの「開発と文学」研究会で気付かせた死角に光を当て、「開発論」の再編成を試み、特定の分野別・セクター別に分断されがちであった開発論を再構築する方法を探る。具体的には、日本内外の視点を踏まえ、世代、学説、ポジションを束ねる感性・知識・経験を手がかりに、「開発」をめぐる言説と実践の関係性を明らかにし、今日的な課題への展望を開くことを目指す。

日時：2025年1月16日（木）19:00-21:00（22:00まで延長可能）

場所：東京大学駒場キャンパス101号館・セミナー室（参加登録者に送付。登録はこちらまたはQRコード）

## プログラム

- 司会：松本悟（法政大学）
- 発表

忘れられたディスコースを求めて——「開発論の系譜」中間報告：大山貴稔（九州工業大学）

メコンの眼差し——地政学的変貌と開発論の波紋：キムソヤン（韓国ソガン大学）

制度発展の内発史観と外発史観——青年海外協力隊の行政システムの分析：松原直輝（東京大学）

フィルターとしての「日本開発学」——ディスコースを受け止める場の課題：汪牧耘（東京大学）

- 質問・コメント・ディスカッション等

※本セミナーは、以下の研究助成によって開催：

国際開発学会「開発論の系譜」研究部会・活動費（2023年10月、代表者：大山貴稔）

「中国における「国際開発研究チーム」：非欧米社会の開発知識の可能性」（日本学術振興会・科学研究費助成事業、若手研究、2023年4月2023年3月、代表者：汪牧耘）

「グローバル・サウスから見た「平和国家」の変質：メコン地域の開発援助関係者への聞き取りを通して」（福盛財団・福盛研究助成（人文・社会科学系）、2023年4月2023年3月、代表者：大山貴稔）



東アジア藝文書院



参加登録